

No. 2341 竜王山（金勝アルプス）

日 時 : 2012年11月18日

参加者 : 佐々木裕 (L) 岡本 片山晃 櫻井 佐藤 嶋原 曾和 片山琴美 計8名

草津駅 9:30 発のバスは新興住宅街を走り抜け天井川沿いに出ると山村らしい風景が広がる。上桐生のバス停に着くとバス停の椅子に寒そうに膝を揃えた小父さんがバスを待っている。もう山から下り来た人があるわ…と置いていたら誰であろうカクテルのライダーマンでした。「今日は寒いから車で来た」との事。総勢8人賑やかに出発 10:00。

バス停から山に向って歩き出す。横の広場には大勢登山者が集まっている。何か催しがあるようだ。車止めのロープを跨いで行くと左に鶏冠山への分岐を見る、第二駐車場を過ぎ、若人の広場を右に見て道なりに進み石の流れ橋を渡って左へ、南谷林道に入る。直ぐオランダ堰堤があり、説明板が建っている。昨日の雨でしっかり地面に叩きつけられた落ち葉道を沢沿いに行く。3つ目の橋の所に吾妻屋があり、さかさ観音に出会う (10:15)。金勝山から落ちて来たとか、オランダ堰堤を作る時石材を取ったので引くり返ったとか、いずれにしても気の毒な仏様だ。もうひと転びすれば正座で来たのに…。

流れに沿った道は昔、金勝寺への参道であったとの事。サブ谷起点の立札の立っている所を過ぎてトンネルを抜ける (10:25)。さらに沢沿いに行くと行き止まりのような出会いに着く (10:35)。

沢を渡って山道に入る。初めは少し解りにくいピンクのテープに導かれて進むと次第にハッキリして来る。右、木立の奥に小さな池、桐生辻分岐を見てさらに登って行くと、鬱蒼とした木立の中に狛坂魔崖佛がある。辺り一面寺跡だったらしい石垣や仏像、大きな阿弥陀如来の石佛の割れに時の流れを感じる (11:20~11:25)。

稜線に出ると国見岩、右へ進むと巨岩帯となり重岩が登山者を見下ろしている。

北方縦走路の白石峰に着く (11:50)。ベンチがあり数人が休んでいた。

腹時計は 12 時、昼食タイムと思いきや、荷物をデポして竜王山に行くと言う、止まりかけたエンジンを掛けなおして竜王山迄もうひと頑張り。

途中自然石に彫られた茶佛観音を見て、風化した花崗岩の尾根道行くとこんもりしたピークが竜王山 (605m) 左の小台地に金勝寺八大竜王本殿が祭られている。対面の尾根には自然が作った見事な岩の群像が見える。白石峰に戻り昼食タイム (12:25)。

今日は滋賀県〇〇日とがで登山者やオリエンテーションの高校生グループが行き交う。チェックポイントの先生二人、足踏みをしたり腕を廻したりして寒そうだ。

私達も休んでいると寒くなって来たので早々に出発する (12:55)。いきなり急な下り、奇岩、怪石の尾根を下ると大きな耳岩、今にも落ちそうだ。耳岩を廻り込むと天狗岩、ロープが下がっているので大人も子供も皆登っている。

勿論私達も登る。ゆっくり休みたい所だがぐるっとひと眺めして降りる (13:30)。

天狗岩の下から北へ花崗岩の溝のようなコースを急降下、鶏冠山へ直進する鞍部の所で左（西）へ向って落ガ滝コースに入る。下るにつれて細い水の流れが沢になり、岩間の水流を渡り返しながら降りて行くと水音が聞こえて来た。滝の右側の山の斜面を下りて、滝を見に行く（14:30）。40m 三段の滝と聞くが、流れよりも巨岩に圧倒される。コースに戻り右から鶏冠山からの道を合わせて林道に出る（14:50）。

林道を横切り湖南アルプス自然林の中に行く。流れに沿った静かなコースだ。池の前に出る、初冬の柔らかい日射を受けた水はうすい黄色に光っている。対面の岸边にはほほけた白い芒の穂波がそよいで、手前の畑の瑞々しい野菜、其の横の草地に並んだ蜜柑の箱、今日一日の累々とした岩山と対称的な穏やかな風景に見とれて通り過ぎると林道に出る。

第二駐車場を経てバス停に戻る（15:15）。バス発車までの僅かな間にお湯を沸かして下さって戴いたコーヒの美味しかった事!!

15:30 発のバスで草津駅に戻りました。

今日の皆様お疲れさま、そして有難う御座いました。 K.K 記